

船舶事故調査報告書

平成23年4月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 石川 敏行

委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成22年10月20日 00時40分ごろ
発生場所	長崎県平戸市の山 ^{あづち} 大島北岸 的山大島長崎鼻灯台から真方位245° 1, 150m付近 (概位 北緯33° 30.35′ 東経129° 32.65′)
事故調査の経過	平成22年10月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{たいせい} 大政丸、4.9トン SA3-23901（漁船登録番号）、個人所有 11.91m (Lr) × 2.58m × 0.82m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数90、平成2年5月20日
乗組員等に関する情報	船長男性 54歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和52年11月25日 免許証交付日 平成19年2月5日 (平成24年8月20日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	船体が中央部から分断して全損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、的山大島西方の漁場でいか一本釣り漁を行ったのち、平成22年10月19日23時45分ごろ佐賀県高 ^{たかくし} 串漁港に向けて帰途についた。 船長は、背もたれの付いた操縦席に腰掛け、GPSプロッターで同島長崎鼻北方沖の変針予定場所を設定し、自動操舵により、真針路095°及び対地速力約9.5ノットで変針予定場所に向けて東進中、翌20日00時23分ごろ手動操舵に切り替え、軽い眠気を感じながら航行していたところ、居眠りに陥った。 本船は、北東方からの風と波により圧流され、緩やかに右転し始め、00時40分ごろ、的山大島北岸の岩場に乗り揚げた。 船長は、携帯電話で先航する僚船に乗り揚げたことを知らせ、本船が所属する漁業協同組合等への連絡と救援を依頼し、船を降りて崖下の岩場で救助を待ち、海上保安庁のヘリコプター及び巡視艇によって救助された。 本船は、大破し、後日、撤去された。

気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北東、風力 4</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の末期、波向 北東、波高 約1.5～2.0m</p>	
その他の事項	<p>船長は、ふだん2～3時間ほど漁場で漂泊して過ごし、日没から翌01時ごろまで操業して帰港し、水揚げを終えて06時ごろから12時ごろまで睡眠をとっていたが、1週間のうち3～4日は、2時間の睡眠のあと直売所に漁獲物を運んでいたため、睡眠が短時間で断続的になっていた。</p> <p>船長は、本事故前の1週間、毎日、夜間操業を行い、また本事故前の4日のうち3日、直売所に漁獲物を運んでいた。</p> <p>船長は、眠気を感じて眠り込みそうなときには、操舵室の外に出て外気に触れて眠気を覚ますようにしていたが、事故当時、軽い眠気を感じていたものの、居眠りに陥ることはないと思い、操縦席に腰掛けて操船を続けていた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、的山大島北方沖を手動操舵で東進中、船長が居眠りに陥ったため、風と波に圧流されて同島に向けて航行し、同島北岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、本事故の1週間前から夜間操業を続けるなどで睡眠の質が低下したこと、疲労が蓄積した状態であったこと、及び操縦席に腰掛けて操船していたことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、的山大島北方沖を手動操舵で東進中、船長が居眠りに陥ったため、風と波に圧流されて同島に向けて航行し、同島北岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>本事故の再発防止策として次のものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 操縦席に腰掛けないなど、当直姿勢を改善する。 ・ 眠気を感じた際、風に当たるなどの眠気を解消する対応をとる。 	

※ 「参考」は、今後の同種船舶事故等の再発防止のために役立つと考えられる事項を列挙したものである。